

下金山地区

「交通死亡事故ゼロ満40年」達成

下金山地区では、平成20年10月11日午前0時をもって交通事故ゼロ満40年を達成しました。昭和43年10月10日に国道237号線で死亡事故が発生してから、交通事故ゼロが続いており、10月11日現在で死亡事故ゼロ14,610日の記録となり、全国の交通安全協会支部の中では、高知県仁淀川村にある支部の記録に次いで全国第2位となりました。

町交通安全協会下金山支部では、満40年達成を期に、看板を複製。看板は、支部顧問を務める平野清司さんが作製したもので、国道237号線沿い下金山市街地の平野さんの自宅横に設置され、地域住民を始め、通過する運転手に啓発をしています。下金山地区には、国道237号線が7キロメートルほど通っており、大型車両の通過が多いほか、車がスピードを出して走る路線であることから、過去にも、市街地の住宅に車が飛び込むなどの事故が数件起きていますが、幸いに死亡事故は発生していませんでした。

道路とは言えない場所なんです。」と話す平野さんの自宅横には、かねてから、交通事故ゼロ目標1万5千日の看板も設置され、毎日平野さんが数字板を入れ替えています。下金山支部では、「死亡事故ゼロ永続」を目指して、「毎日が交通安全・交通安全は家庭から」を合言葉に、地域が一丸となつて、今後も輪禍防止のために取り組みが続けられます。



本町の災害危険箇所を視察

陸上自衛隊上富良野駐屯地第131特科大隊

本町が大規模な災害に見舞われた場合の有事に対処するため、本町の救援作業を担当する陸上自衛隊上富良野駐屯地第131特科大隊の宮本芳昌大隊長と隊員24名が10月6日本町を訪れ、災害危険箇所の現地視察が行われました。

視察では、町の担当者から説明を受け、土砂災害などの起きる恐れのある危険箇所を巡回し、想定される被害状況や周辺の住宅の状況、災害時の交通ルートなどについて熱心に確認していました。



新しい人権擁護委員に 大神裕全さん(幾寅)



平成14年から人権擁護委員としてご活躍いただきました五日市義治さんがこのたび退任され、大神裕全さんが10月1日付をもちまして法務大臣から委嘱され、新しい人権擁護委員としてご尽力願うことになりました。

人権擁護委員は、近隣との争い、借地、借家、不動産売買、金銭貸借、いじめ、体罰などの相談に応じます。

相談は無料で、個人の秘密は固く守られますので、お気軽にご相談ください。

平成20年度電源立地地域対策交付金事業で診療所および歯科診療所の医療機器を整備

電源立地地域対策交付金は、発電用施設の立地地域や周辺地域で行われる公共用施設整備、または、住民福祉の向上に資する事業に対して交付されるものです。

今年度は、この事業により、地域住民の健康維持と緊急医療体制の充実を図るため、落合診療所の備品としてデジタル線画像診断装置、幾寅診療所の備品として滅菌器、血球計数器、歯科診療所の備品としてポータブル線診断装置を整備しました。

落合診療所



デジタル線
画像診断装置

幾寅診療所



滅菌器



血球計数器

歯科診療所



ポータブル
線診断装置